

2016年度

10-11月号

(通巻 166号)

市立

いちかわ

# 自然博物館だより

あたりまえの風景に  
あたりまえの生き物に  
あたらしいときめきがある！

いきもの  
写真館



自然博物館収蔵写真

ノブドウ

実が白や紫、青などに色づくツル植物です。ためしに白い実を口に含んだ時は、甘く、硬いタネがありました。

P 1 ☀️ いきもの写真館  
ノブドウ

P 2 ☀️ 同じ場所を何度か訪れる  
田んぼの1年  
3 9月28日

P 4 ☀️ 花屋の花を観察する  
センニチコウ

P 5 ☀️ 街かど自然探訪  
東菅野・秋に楽しむ花と実

☀️ くすのきのあるバス通りから  
真間川の小さな自然

P 6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題  
バッタの産卵床

P 7 ☀️ わたしの観察ノート  
7月～8月ごろの記録

P 8 ☀️ 行事案内



同じ場所を何度か訪れる

# 田んぼの1年

9月28日

## 【稲刈りが終わった田んぼ】

今回は、9月のおわりに田んぼを訪れました。稲刈りは大半が終わり、稲の束が竹で組んだ干し場で天日干しされていました（「はぎ掛け」などと呼ばれます）。田んぼは再び広々とした空間に戻りました。イネは刈られた後に再び青い葉を伸ばすの

で、湿った泥にイネの小さな株が規則正しく並んで見えます。一見すると、田植えをしたばかりの春の田んぼにそっくりです。

ただ春と違うのは、このあとは草取りや水の管理などの作業が行われないことです。そのため、泥の中の種子や根からたくさんの野草が伸びだします。10月の田んぼ



9月28日の田んぼ

泥地に小さなイネの株が規則正しく並ぶ。春の田んぼによく似ている。

は、じつは野草が豊富な場所です。春はタネツケバナなど限られた種類が群落を形成しますが、秋は多様性に富んだ植物群落が広がります。田んぼという場所がどれほど自然豊かであるかは、秋にこそ実感できます。

### 【草に覆われた休耕地】

毎回訪れている「親子ふれあい農園」にはイネが植えられていない場所もあります。田起こし・代掻きまでは同じですが、その後、水を張ったまま放置されます。草取りなども行われないので、当然ですが草に覆われます。田起こしから半年後、人が手をかけた場所は稲刈り後、また最初の泥の状態に戻り、放置した場所は植物で覆われています。秋の小さな野草にとっては、人が草取りをしてきた場所の方が生育するチャンスがあります。「放っておけば豊かな自然が形成される」という考え方が必ずしも正しくないことは近年広く認識されています。秋の田んぼの豊かな植物群落もまた、稲作を通じて人が手を加えることで生み出された自然と言う事ができます。

### 【田んぼの浅い水たまり】

今年は、8月中旬以降、台風がつぎつぎ襲来し雨と風にみまわれました。「親子ふれあい農園」の稲も強風で倒れてしまい、大急ぎで稲刈りが行われたそうです。雨が続いた後の9月15日に訪れた時は、田んぼにはずいぶん水がたまっていました。秋の水たまりは農作業にとっては困りものですが、生き物にとってはその逆です。水たまりがあることでトンボ類の産卵が促されます。冬まで水が残ればニホンアカガエルの産卵場所にもなります。自然の湿地としての田んぼの一面は、秋の田んぼを見るとよくわかります。



休耕地のようす（9月15日）

一面、草で覆われている。



田んぼにできた水たまり（9月15日）

農作業には困るが、生き物にはありがたい。



はざ掛けのようす（9月15日）

スズメ対策のネットがかけてあった。

## 花屋の花を観察する

# センニチコウ



センニチコウ（千日紅）は、花が長持ちするため花壇や鉢植え、切り花などでよく見かけます。名前の通り紅色のものが一般的ですが、今回は白色のセンニチコウを材料に用いました。

センニチコウは、小さな花が多数集まってひとつの球形の花を構成しています。キク科のタンポポやマメ科のシロツメクサと同じです。球形の花をむしるとひとつずつの花が簡単にはずれ、断面を見ると小さな花の集まりであることがよくわかります（写真上左）。

むしりとった個々の花は「押し麦」のような形をしています（写真上中）。ですが、それが花としてどういう構造なのかよくわかりません。実はこの「押し麦」の形は、2枚の苞（ほう）に包まれてできています（写真上

右）。球状の花の集まりを花らしく見せているのは、この苞の部分にあたります。苞の色が、花の色なのです。

「押し麦」の形から苞を取り除くと、やっと花の本体にたどりつきます（写真下左）。とは言っても、やはりわかりにくい形です。細長い萼（がく）に生えた毛で全体が包まれています。毛の生えた萼を取り除くと、ようやく花の本質に出会えます。丸い子房（しほう）と、筒状に伸びた雄しべ、筒の中にある雌しべです。

結局、花は、種子のもとが収まった子房と花粉が収まった葯（やく：雄しべの本体）が葉状の器官（花びら、萼、苞）に包まれたものだということが、この花を見るとよくわかります。



上左：小さな花が集まった全体の花の断面

上中：ひとつずつの花

上右：苞を左右に開いた（下の2つ）

下左：苞を取り除いた花

下中：丸い子房から伸びた筒状の雄しべ



# 街かど自然探訪

おじゃまします!

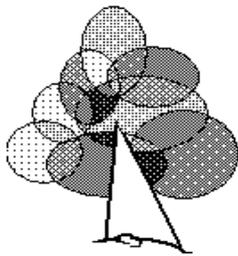
ひがしすがの  
東菅野・秋に楽しむ花と実

東菅野児童交通公園の南側の道を、キンモクセイの香りに誘われて歩いてみると、垣根ではオレンジ色の花がちょうど満開でした。垣根の先のフェンスでは、いろいろなつる植物が見られました。おなじみのヤブガラシはそろそろ花が終わり、ヘクソカズラはピカピカの丸い実がついていました。フェンスから屋根へと這い上がっている瑠璃色の丸い実は、アオツヅラフジです。まだ緑色の若い実も、たっぷりついていました。小さいお豆が2個ずつ入ったタンキリマメの実は、これから赤く色づくのが楽しみです。



△アオツヅラフジ

林の中でもよく見られますが、つると葉ばかりで実をたくさんつけているのには、なかなか出会えません。



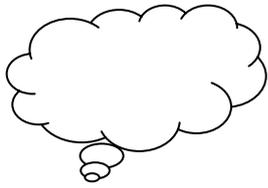
くすのきのあるバス通りから No.108

## 真間川の小さな自然

9月8日11時頃、真間川の八幡橋のそばでカワセミのような鳥を見ました。上から見ていて、きれいな青い金属のような色の胴体が印象的な小さな鳥が、二羽連れだって富貴島小の方へ飛んでいきました。しばらくすると一羽戻ってきました。14日2時頃、慈眼橋のそばで一羽飛んでいきました。枝にとまっている姿ならカワセミとわかりますが、どうでしょう。小さなボラが100匹位の群れになってあちこちで泳いでいます。大きな水紋は大きな黒いコイ

でした。ちぎれたカナダモが上流から流れてきます。カメもいたる所にいます。土のある護岸にはベンケイガニが棲み家の穴のそばにいます。浅間橋の北方側にいつもアオサギがいます。大和橋の近くにもアオサギが時々います。雨の後は土色に濁っていますが、普段は緑色がかった水の色です。引き潮の時、浅間橋の八幡側では音を立てて水が流れます。歩道わきに見慣れないヒルガオが咲いています。マメアサガオだそうです。

(M. M.)



# 展示室

No.10

## 飼育生物の話題



バッタの

産卵床

博物館ではバッタ類を 120cm 幅の大型水槽で飼育展示しています。入手できたバッタをそのつど入れるため種類はいろいろで、トノサマバッタ、クルマバッタモドキ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、コバネイナゴ、ツチイナゴなど、いつも何種類かは見られるようしています。クビキリギスを越冬させたこともあります。

水槽には、小粒の赤玉土を入れたプラ容器も入れてあります。これが「バッタの産卵床」です。秋にはトノサマバッタやショウリョウバッタなどが産卵します。腹を土に差し込んで卵塊を産みつけ（写真：産卵するトノサマバッタ）ますが、土の上や水槽の床面に産んでしまうこともあります。

プラ容器は、秋が深まってバッタたちが死んでしまってもそのままにしておきます。冬、水槽は展示としては「お休み」になりますがそれは照明を入れただけで、そのまま展示室に据え置きます。

4月ごろ、水槽内には小さなバッタが姿を現します。あわてて餌の青草を入れて展示を再開します。小さなバッタを育て上げて産卵させる「累代飼育」までは取り組んでいませんが、バッタの成長を見ていただける展示になっています。

# わたしの 観察ノート

## ◆長田谷津より

- ・長田谷津内を散策中、バラ園の周りでニイニイゼミが鳴いているのを確認しました(6/26)。

K. H. さん

- ・地面を歩いていたセミの幼虫が、踏まれたら可哀そうと博物館に届きました(7/9)。事務所の布クロスの壁にとまらせた夕方のうちに羽化しました。
- ・湿地の草刈りをして休憩していたら、子ダヌキがひょこりと現われました(7/10)。草むらから園路の下に入り、姿を消しました。
- ・園路の擬木杭にシャチホコガの幼虫が止まっていた(7/14)。一見ただけでは落ち葉と見分けがつかせませんでした。
- ・カブトムシがいっぱいいるクヌギの樹液にルリタテハが来ていました(8/7)。カナブンもいました。
- ・今年はハッカがよく茂っています(8/24)。ほかの夏草に負けずに大きな株になり、紫色の花を咲かせ始めました。

## ◆動物園内より

- ・園内で捕れたイモムシを育てていました(8/12)。ヤママユにしては小さいし繭の形もおかしいと思っていたら、オオミズアオが羽化しました。
- ・ザリガニが入れてある大型のバットの蓋に、朝、アズマヒキガエルがちょこんと乗っていました(8/14)。夜行性なのでこれから休もうという感じでした。

以上 金子謙一(自然博物館)

## ◆大柏川周辺より

- ・柏井町3丁目、大柏川、浜道周辺、この場所は、ここ数年、クマゼミの鳴き声が確認できる場所です。今年も、確認できました(8/6)。この他の場所(奉免町周辺)でも鳴いているのを確認しました。

K. H. さん

## ◆市川より

- ・6月初めにう化したスズムシが次々と成虫になって、鳴き始めました(8/2)。頼りなかった鳴き声が日に日にしっかりしてきて暑さを少しやわらげてくれるようです。

## ◆真間山より

- ・遅い梅雨明けの上、その後もはっきりしない天気が続きましたが、一気に真夏の日射しとなり、南側斜面林でもツクツクボウシが鳴き始めました(8/5)。

以上 M. T. さん

## ◆中山より

- ・エノキの葉っぱに立派なタマムシが止まっていた(7/5)。住宅地でも木が多いところでは見つかるもんですね。

## ◆江戸川放水路より

- ・河川敷にある公園の水たまりに、おびただしい数のクロベンケイガニがいました(7/20)。何も知らずに行くと、かなり驚く数でした。

以上 金子謙一(自然博物館)

高湿度の日が続き7月28日にやっと梅雨明けしてからは、幾日も猛暑日となり、市川上空を通過した台風もありました。



# 行事案内



## 長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日 時 11月5日㊥、12月3日㊥、平成29年1月7日㊥、  
午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

## 季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは、「広報いちかわ 12月3日号(掲載予定)」をご覧ください。  
または、博物館に直接おたずねください。

テーマ	日 時	集合場所
クロマツのある街なみ	12月18日㊥ 午前10時～11時30分	未定

## 長田谷津ボランティア

### 湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。

(雨天中止)

- ・日 時 10月30日㊥、11月27日㊥、12月25日㊥、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

### 野草名札付けをお手伝いして下さいますか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日 時 11月6日㊥、3月5日㊥(12～2月はお休み)  
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

第28巻 第4号 (通巻第166号)

平成28年10月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館  
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>